

序

私が日本でのEBM(Evidence-Based Medicine)の理解と普及のために最初に解説書を出版(「EBMの正しい理解と実践 Q&A」羊土社, 2003)してから15年たち、現在では日常診療の現場でEBMやエビデンスという言葉を見聞きしない日はないほどにまでEBMは定着してきました。また、国内での臨床研究も発展してきています。一方で、統計学の臨床的教育は大きく遅れており、エビデンスに振り回されたりEBM商法にだまされたりすることも現場では多々あるのが実情です。

本書は入門的拙著(「臨床統計はじめの一步 Q&A」羊土社, 2008)を診療現場でのニーズの変化に応えられるように大幅改訂したもので、EBMの理解と実践に必要な実用的統計学を慣用語やイメージを多用してわかりやすく解説しました。EBMは患者さんに始まり患者さんに帰着し、数値は臨床的枠組みのなかで初めて意味をもちます。「臨床統計学」という名称はこの観点に基づくものです。

【本書の対象者と難易度の目安】

難易度 ★★☆☆ 統計の基礎を理解したい医学生・看護師・メディカルスタッフ・医療情報担当者

難易度 ★★★☆☆ EBMを実践したい医学生・研修医、論文を的確に読む技を身につけたい医学生・看護師・メディカルスタッフ・医療情報担当者

難易度 ★★★★★ 臨床研究の発表を計画している研修医・指導医、論文の読み方の教育をする指導医

【本書の特長】

- 1) 臨床研究論文(エビデンス)を正しく読んで活用したり研究を創ったりする際に、辞書としてもハンドブックとしても使いやすい構成です。上級者向けに“Advanced Level”コーナーも増設しました。
- 2) EBMを実践する際にこれだけは理解しておきたい次の焦点に重点をあてています。
 - ・クリニカルクエスションの構成
 - ・不確かさの解釈(バイアス・再現性)
 - ・データがもつ臨床的意義
- 3) 数式を極力排除し、言葉やイメージで体得できるように工夫しています。

本書がEBMの有効な実践やエビデンス創作に役立つよう心より願っております。

2018年3月

能登 洋